

日本語教育史研究会 2019 年度研究発表会のお知らせ

2019年7月12日

日本語教育史研究会運営委員会

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。標記の研究会を下記の要領で開催いたします。多数のみなさまのご参加をお待ちしております。

日時：2019年9月14日（土）

会場：東洋大学白山キャンパス 1号館 3階 1310教室

会場へのアクセスはつぎのHP をご参照ください。

・白山キャンパス <http://www.toyo.ac.jp/nyushi/about/campus/hakusan/access.html>

プログラム：

13：30～13：40 研究会の開催にあたって

本田 弘之（北陸先端科学技術大学院大学・日本語教育史研究会会長）

13：40～14：25 研究発表 1

「長谷川雄太郎研究・その3ー『日語入門』初版の成立過程に関する一考察ー」

中村重穂

清末の日本人教習・長谷川雄太郎の手になる日本語教科書『日語入門』について、これまで国内で草稿、及び5冊の刊本の存在が確認されていたが、新たに6冊目の存在が確認された。これらのうち3冊が初版であり、奥付の印刷・発行年月日は同一であるが、文章や字形には現代では考えられない相違が数多く出現している。本発表では、3冊の初版の校合、及び現地調査を含む当時の印刷技術の歴史から初版の成立過程を考察することにする。

14：25～15：10 萌芽的研究発表 1

「令和新時代以降の日本語教育史研究」

泉史生

令和新時代に入り、日本語教育史も新たな視点からの研究をしていかなければと考える。新たな視点とは、近代教育からの視点と、日本語教育史考証の提唱である。第一に近代教育からの視点である。1895年以降は近代日本語教育の歴史である。近代教育として発展してきた要因は何か。捉え直しをしたい。第二に数々論じられる日本語教育の現場を再現すること。様々に論じられる史的内容を再現できる考証が必要ではないか。以上のことを含

めて、今後の日本語教育史研究について考察したい。

15 : 40~16 : 25 萌芽的研究発表 2

「タイの南方特別留学生とバンコク日本語学校—インタビュー資料から—」

山口雅代（東京福祉大学・大学院教育部）

1943年と1944年に205名の南方特別留学生が日本に留学した。タイからも12名が来日した。山口・北村（2017）注）は、戦前・戦中の北部タイの日本語教育に関係ある5名のインタビューの資料を公開した。その中の1名が南方特別留学生として来日したタイ人留学生で、来日前にバンコク日本語学校で1年2か月日本語を学んできたことがわかった。そこで、タイの南方特別留学生に焦点をあて、これまでの研究成果とインタビュー資料を合わせて検証する。

注）山口雅代・北村武士（2017）「戦前・戦中の北部タイ日本語学習者へのインタビュー資料について」『日タイ言語文化研究』第4号、日タイ言語文化研究所、pp. 159-224

16 : 25~17:25 ワークショップ

「デジタル歴史学と現代日本語教育史研究

- 教科書掲載語と作成者のオーラルヒストリー分析を例に -」

田中祐輔（東洋大学・国際教育センター）

キーワード：教科書分析、日本語教科書語彙データベース、量的調査・質的調査

本ワークショップでは、日本語教科書語彙データベースの構築と分析を通じた戦後の日本語教育における指導語彙に関する史的研究、および、教材作成者に対する映像オーラルヒストリー研究について紹介します。デジタル技術を用いた史的研究や、デジタルデータを用いた史的研究をデジタル歴史学として捉える場合がありますが、近年、技術的な進歩と普及により加速度的に取り組みが進んでいます。本ワークショップでは、それらを踏まえた上で、日本語教育の視点によるデジタル歴史学の実例を紹介し、その可能性について皆様とお話したいと考えます。内容の紹介に40分をあて、その後20分を参加者の皆様との議論の時間といたします。教科書分析や調査法、現代日本語教育史の研究にご関心のある方のご参加をお待ちしております。

17 : 25~17:45 総会

研究会終了後、会場近辺で懇親会を予定しています。